

2011年8月23日

報道関係者 各位

国立大学法人電気通信大学

グリーンイノベーション博士養成 ～国公立6大学と20社、10公機関が産学官協働～

北見工業大学、室蘭工業大学、電気通信大学、富山大学、大分大学の国立5大学と秋田県立大学の国公立6大学が共同で環境共生サステナブル社会のリーダー「グリーンイノベーション博士」の養成に取り組むことが決定いたしましたので、お知らせいたします。

この6大学は、産官を活躍の場とする博士（ノン・アカデミア博士）の養成を目指して2010年に発足した広域産学官連携組織「スーパー連携大学院コンソーシアム」のメンバー校である。6大学はこのたび、コンソーシアムをプラットフォームとして活用し、コンソーシアムに参加する20社を超える企業や10を超える公的機関と共同で、環境問題解決に資するイノベーションを先導し、かつグローバルに活躍できるリーダー人材を育成する新しいタイプの博士課程として、グリーンイノベーション博士養成プログラムを計画している。

環境問題は専門分野の枠を超えた複合的・融合的・実践的課題であることから、本プログラムでは、多様で特色ある6大学の教育研究資源と多様な企業等の技術力・開発力を総合的に組み合わせることが可能な産学官連携体制を生かして、総合環境科学技術のリーダー養成を目指す。とくに、これからの環境問題解決には、スマートグリッドなどに見られるように、ICTの活用は必須であり、ICT技術を駆使した環境イノベーションを目指す。

グリーンイノベーション博士養成プログラムは、6大学の参加研究科の博士前期課程入学者総数約1,100人の中から、毎年その約1%に当たる優秀で志が高い者約12人を選抜し、通常の学修に加えて、産学官が共同で提供する5年一貫の体系的で厳しいコースワークを課し、厳格な評価に耐えた者に、それぞれの所属大学の博士号に加えて「グリーンイノベーション博士（仮称）」を認定する。実質的には我が国ではまだ例がない「ダブルメジャー」相当の博士となり、高い専門性のみならず総合的な広い視野と俯瞰力を持ち、グローバルに活躍できる環境問題のリーダーとなることが期待される。

北海道から九州に至る特色ある国公立大学と多様な企業、研究機関等からなる全国的な

広域産学官連携による本プログラムは、単に博士人材の育成のみを目的とするのではなく、それぞれの地方固有の背景を持つ環境問題の解決に資する研究開発成果と、地域に必要な博士レベルの指導者の輩出を目指している。これらを通じて、環境問題の解決のみならず、各地方の産業と文化の活性化を通じて、環境と共生し、サステナブルな自立した地域社会の実現に資するものである。また、離れた地域の産学官を結びつけるハブとなり、地域間の相互協力と相互補完による新たな産業創造につなげることも大きな目標としている。

本プログラムの2大特徴は、

- ①産学官がイコールパートナーとして、教育課程の企画、講義等の授業担当、入試、学位審査、キャリア支援まで全ての実務を協働すること
 - ②博士学位研究は、必ず産学官共同研究プロジェクトに参加して実施しなければならないこと
- である。

すでに、環境問題を主テーマとする産学官共同研究プロジェクトとして、「スーパー連携大学院コンソーシアム」と清水建設、野村證券の3者で協力協定を締結した「グリーンフロート構想」や「先進EV交通システム」、「森林100年構想」などについて研究会を発足させ、準備を開始している。

なお、このプログラムは、文科省が本年度から、産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーの養成を目的として募集を始めた「博士課程教育リーディングプログラム」へ6大学共同で申請（申請大学：電気通信大学、申請日：8月10日）しており、これにより構想を一気に加速することを見込んでいる。

本件の問合せ先

〒182-8585 調布市調布ヶ丘 1-5-1
電気通信大学 教務課長 高田 洋一
TEL:042-443-5071 FAX:042-443-5080 E-mail:kyomukacho@office.uec.ac.jp

スーパー連携大学院コンソーシアムURL：<http://www.super-daigakuin.jp/>
